

## 新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、弊社では皆様のご要望にお応えするため、検査の新規拡大に努めておりますが、この度、下記項目の検査受託を開始することとなりました。

取り急ぎご案内致しますので、宜しくご利用の程お願い申し上げます。

敬具

記

### 新規受託項目

項目コード	830802
検査項目名	インタクト I 型プロコラーゲン-N-プロペプチド(Intact P1NP)
検体量	血液 1.0mL (分離剤入り生化学容器)
保存方法	室温
検査方法	RIA(二抗体法)
基準値	男性(20~80歳) 19.0~83.5 $\mu\text{g/L}$ 閉経前女性(30~44歳) 14.9~68.8 $\mu\text{g/L}$ 閉経後女性(45~80歳) 27.0~109.3 $\mu\text{g/L}$
所要日数	4 ~ 10日
検査実施料	170点* ([D008]内分泌学検査「14」)
検査判断料	144点(生化学的検査Ⅱ)
備考	*:保険適用条件 骨型アルカリホスファターゼ(BAP)、インタクト I 型プロコラーゲン-N-プロペプチド(Intact P1NP)及びアルカリホスファターゼ・アイソザイム(ポリアクリルアミドディスク電気泳動法)のうち2項目以上を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

受託開始日

2012年1月4日(水)

## インタクト I 型プロコラーゲン-N-プロペプチド(Intact P1NP)

I 型プロコラーゲン-N-プロペプチド(P1NP)は分子量35,000の細長い形状をした蛋白質で、血中に単量体や三量体などのインタクト分子として存在しています。I 型プロコラーゲンが骨芽細胞内で合成され細胞外に分泌された後、I 型コラーゲンとしてコラーゲン繊維に取り込まれますが、その際に切断されたC末端プロペプチド(P1CP)とN末端プロペプチド(P1NP)が血中に放出されます。これらの大半は骨組織に由来するため、骨形成マーカーとしての有用性が認められています。

本検査はこのP1NPを測定するもので、骨基質の成熟及び石灰化の段階で出現する骨型アルカリフォスファターゼ(BAP)やオステオカルシンに比べ、早期における骨形成マーカーという特徴があります。

P1NPと骨量には負の相関が認められるとされ、また破骨細胞の活動を抑制するビスフォスフォネート製剤及びPTH製剤による治療効果を良く反映し、モニタリングに適していると考えられています。

### ■ 参考文献

曾根照喜, 他:ホルモンと臨床, **49**(11), 1133~1138, 2001.

曾根照喜, 他:Osteoporosis Japan, **18**(3), 555~562, 2010.